

【質問内容】

1. 人口減少に歯止めをかける政策について
2. 観光戦略について

14 番作野幸憲議員、質問席に移動願います。

[14 番 作野幸憲君 質問席]

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野議員の質問は一問一答方式、質問時間は 30 分間です。

作野議員におかれましては、事前にパネル使用を許可しております。

作野幸憲議員。

▼○14 番（作野幸憲君）▽ 議席番号 14 番作野幸憲でございます。早速一般質問をさせていただきます。

まず、1 つ目の大項目、「人口減少に歯止めをかける政策について」伺います。

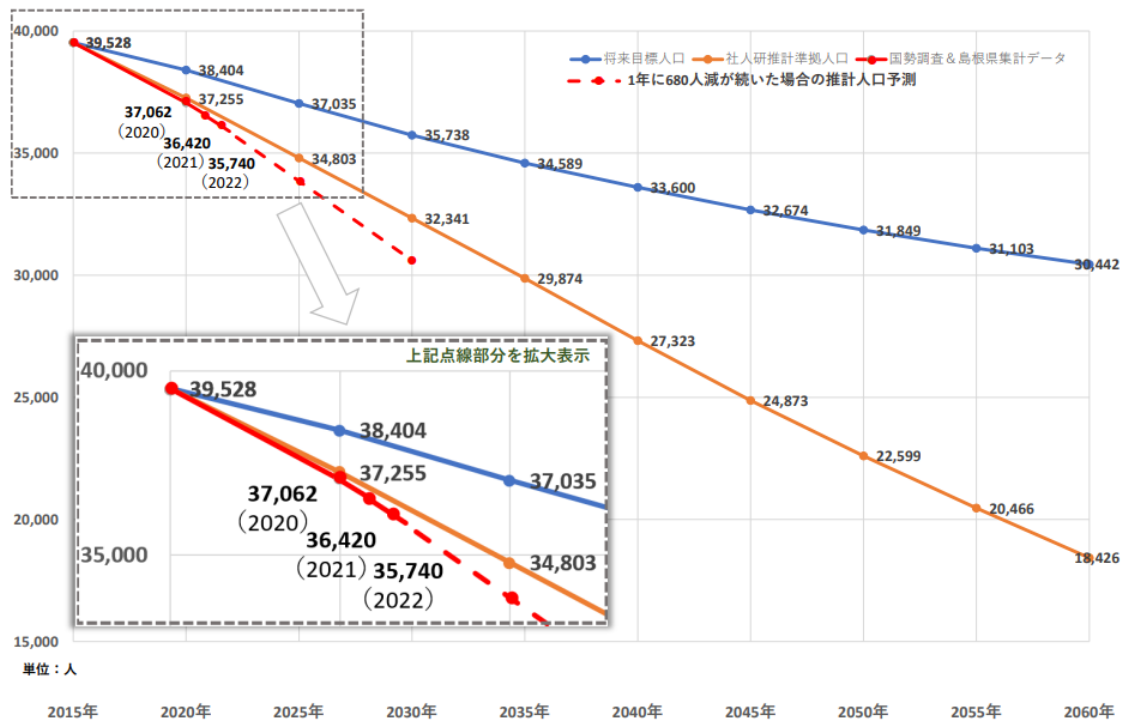
最初に、安来市の人口ビジョンと現状についてお尋ねをしたいと思います。

まずは、この資料 1 をご覧ください。

これは、平成 27 年度に策定された安来市人口ビジョンにおける将来目標人口、グラフでは青の実線です。そして、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研が 2018 年（平成 30 年）に示した安来市の推計居住人口、グラフではオレンジの実線です。そして、島根県が毎年 10 月 1 日に更新している人口移動を示した島根県の集計データ、グラフでは赤の実線です。今回、この 3 つのデータを基につくったグラフが資料 1 です。

# 安来市人口ビジョンと社人研データと現状

資料 1



出典：安来市人口ビジョン将来目標人口、国立社会保障・人口問題研究所推計準拠人口（2018年）、島根県集計データ（人口移動） 作成者：作野幸恵

このグラフの拡大表示の部分を見ていただきたいと思います。安来市の人口は、2015年の3万9,528人から2020年には3万7,062人になり、5年間で2,466人減少し、年平均では約490人程度減少しておりました。この減少速度は、社人研の推計とほぼ同じようなものでした。しかしながら、ここに来て、過去2年間は毎年600人以上減少し、2021年10月1日から2022年の9月30日の1年間では680人減少し、700人に迫ろうとしております。

グラフの赤の点線をご覧ください。仮に毎年680人ずつ減少していくと、3年後の2025年には人口が3万3,000人台まで減ることになります。また、2030年には安来市の人口ビジョンの2060年の目標値を30年も早く下回るのではないかと大変私は危惧しております。

私は、2019年9月の定例会議で人口ビジョンの見直しについて質問をしたとき、「人口ビジョンの将来目標については、安来市の施策の方向性や事業の進捗を図るための指標ともなっていることから、現在の基本構想の下でこの目標値を変更することは考えていない」という答弁がございました。しかしながら、現状は、想像以上に人口減少が進み始め、今、しっかりと人口減少に歯止めをかける

政策を打っていかねばならないと考えます。

そこで、この状況をどのように分析しておられるか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 安来市では、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す安来市人口ビジョンを平成 27 年 10 月に策定し、2060 年（令和 42 年）の安来市の人口 3 万人以上を目標とし、人口減少の抑制に向けて全力で取り組むこととしております。

人口ビジョンでは、令和 2 年の安来市の目標人口を 3 万 8,404 人と設定しておりましたが、その年に行われた国勢調査の結果は、目標を 1,342 人下回る 3 万 7,062 人でした。また、島根県集計データによると、各年 10 月 1 日現在で平成 30 年 3 万 8,032 人であった安来市の人口が、令和元年では前年比 451 人の減の 3 万 7,581 人、令和 2 年は、国勢調査の結果から前年比 519 人の減の 3 万 7,062 人、令和 3 年は前年比 642 人の減の 3 万 6,420 人と、年々人口の減少が増えてきております。

議員ご指摘のとおり、このペースで人口が減少すると、令和 7 年の人口が、目標人口の 3 万 7,035 人を大きく下回る 3 万 3,000 人台になる可能性もあり、安来市が目標とする 2060 年に人口 3 万人維持の達成が極めて困難になると予想されます。

人口対策を喫緊の最重要課題と改めて認識し、人口ビジョンの目標人口に少しでも近づけるよう各種施策に取り組んでまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 人口ビジョンの見直しについては、令和 7 年には次の総合計画が策定される予定になっておりますので、今見直しなさいとは言いませんが、安来市の様々な施策の方向性や事業の進捗の指標ということですから、そこは柔軟に対応していただきたいと思っております。

私は、今回、いろいろなデータで調べ、特に地域経済分析システム、いわゆる RESAS を用いて独自に分析してみました。RESAS とは、地方創生の様々な取組を情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供しているウェブサイトです。自治体職員の方や地域の活性化に関心を持つ様々な分野の方によって効果的な施策の立案、実行、検証

のためなどに広く利用されているシステムでもあります。

その中で、今回、安来のことを調べて特に気になったのが、2019年から安来市の社会減の数が230人から240人の間で増えてきたことです。この要因は何だと考えておられますか、お願いいたします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 総務省統計局の住民基本台帳人口移動報告では、令和元年の安来市の社会増減数はマイナス227人、令和2年はマイナス218人、令和3年はマイナス186人となっており、地域経済分析システム——RESASのデータと異なり、減少数の若干の緩和が見られますが、転出が転入を上回る転出超過の状態が続いております。特に10代から20代の転出超過が著しく、令和元年がマイナス125人、令和2年がマイナス187人、令和3年がマイナス223人となっております。

また、文部科学省のデータによると、近年、大学への進学率が上昇しており、特に女性の進学率の伸びが顕著になっています。そのため、高校を卒業した学生が大学進学のために市外に転出する割合も増えていると分析しています。

今後は、市外に転出した学生への地元就職を支援する取組を進める必要があると考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ また、今までは特に20代女性の転出先を、近隣では米子市と松江市に置いて注視して私はおりましたが、近年、出雲市への転出も増えてきております。RESASのデータでは、2021年の20代女性の転出人数は合計79人で、そのうち松江市がトップで14人、次が出雲市で13人と続いております。このことをどのように分析しておられますか、何か対策は考えておられますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 総務省統計局の住民基本台帳人口移動報告によると、安来市から出雲市への女性の転出者数は、平成30年で29人、令和元年で20人、令和2年で18人、令和3年で36人となっており、令和3年が前年と比べて倍増しております。地域経済分析システム——RESASのデータと若干異なりますが、特に令和3年の36人のうち20代が17人であり、直近で最も多くなっております。

安来市から若い女性が転出する理由としては、結婚のほか、転職、就職が主な

ものとなっております。安来市は、他の自治体と比較して鉄鋼関係の製造業の占める割合が多く、女性の就業希望が多い第3次産業の割合が少ないと分析しております。

その対策として、ソフト産業の誘致や女性の社会進出の推進、市民が安心して子供を産み育てられる環境づくりに取り組み、女性が活躍できる地域社会を構築していきたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ そこで、ソフト産業の誘致についてお尋ねいたします。

若い女性の雇用の場を増やすことが、人口減少に歯止めをかけるためには、私は必須と考えます。そのためには、一日でも早くソフト産業などの誘致を進めていただきたいと思います。

市長さんは、昨年の施政方針に引き続き、今年は、特に市独自でソフト産業誘致活動を強化されると言われておりますが、どこまで進んでおりますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 安来市においては、人口流出対策の一つとして、若者や女性などの多様な就労ニーズを満たす雇用の場の創出が大きな課題となっております。そのため、安来市の土地利用や地理的な状況を鑑み、従来の製造業のほか、女性や若者の就職先の選択肢を広げるため、IT企業をはじめとしたソフト産業や、全国的にも設備投資に意欲的な物流業なども含め、企業誘致を進めております。

今年度に入り、IT企業を中心に問合せを受け、実際に安来市にお越しいただく中で、安来市の補助制度や魅力をお伝えしながら企業誘致への取組を進めているところです。今のところ、結果には結びついておりませんが、引き続き積極的な働きかけを行ってまいります。

今年度は、こうした企業誘致を促進するに当たり、ソフト産業等誘致促進支援業務を委託し、安来市企業誘致戦略の策定に向け、進めております。現在、最終調整を行っており、市の企業誘致施策の考え方をしっかりと明確化して今後の誘致活動に反映させてまいります。

また、ソフト産業等誘致促進支援業務の中で、企業誘致のPR媒体として2分程度のPR動画を作成する計画としておりましたが、このたび完成したところです。先ほどの誘致戦略と併せましてホームページなどでも公開し、誘致活動に活

用してまいります。

なお、来年1月には、県の主催で大阪市において企業立地セミナーの開催が予定されておりますが、市長も出席してトップセールスを行う予定としており、しっかりと安来市のPRを行ってまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ やはり、このような案件については、市長さんのトップセールスが大変重要になってくると思いますので、今まで以上に頑張っていたいただきたいと思っております。

次に、農業支援による人口増加についてお尋ねをいたします。

今、農業を目的に移住したいと思う若い世代は、コロナもあって多いと感じております。そして、安来市には、農業次世代人材育成投資資金事業をはじめ、就農・定住パッケージ事業、そして、若い世代には、魅力的であろうスマート農業など、すばらしい支援策が現在もたくさんあります。人口減少に歯止めをかけるためにも農業支援を強化していくことはいかが考えておられますでしょうか、お願いします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 細田農林水産部長。

▼○農林水産部長（細田孝吉君）▽ 安来市では、Uターンで新しく就農しようとする人に対して、新規就農者を受け入れる集落と農業の指導者となる師匠への誘導、就農時の農地の確保、機械、施設整備の支援に加えて、定住に至る将来を考え、住居の確保までを包括的にサポートする体制を取り、自営就農あるいは雇用就農、半農半Xといった働き方の選択肢を持ちつつ、多様な収納ニーズに対応してきておるところでございます。

就農を契機として安来市を定住の候補地として選定いただくためには、就農に係るサポートのほかにも住環境の整備も大切となりますので、移住見込みの方や就業準備中の方へは、一時的な仮住居としてお試し住宅制度を、定住される方へは、市内の空き家を賃貸・売却が可能な物件として紹介する空き家バンク制度など市の定住支援制度も紹介しながら、単身者や家族連れ世帯に応じた就農しやすい環境整備を推進してまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 答弁でもありましたが、居住の支援として、もっと空き家を利用できるような政策に取り組んでいただきたいと私は思っております。

次に、切川バイパス周辺のまちづくりについてお尋ねいたします。

9月定例会議で安田地区の新工業団地整備事業を中止すると発表され、企業誘致については、個別具体的な立地相談に対応する形で進めるということでした。全国的な情勢としては、設備投資に意欲的な業種は製造業から流通・倉庫業にシフトしているという分析でした。しかしながら、環境を整備しておかなければ企業は来てくれないと思います。

まずは、令和6年度に切川バイパスが完成予定です。今から、その周辺をどうするか、まちづくりのイメージは持っておられますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 切川バイパス周辺につきましては、新たなまちになるポテンシャルがあると認識しております。しかし、切川バイパス沿いは、市街化調整区域である上に優良農地が広がっていることから、都市計画法、農地法をクリアするためには、個別具体的な開発計画に基づいて各法令の許可要件を満たすか、確認する必要があります。このことから、切川バイパス周辺のまちづくりにつきましては、個別具体的な民間の開発ニーズを取り込む形で進めてまいりたいと考えております。

公的手続に当たりましては、庁舎内に開発関係法令の所管部署による連絡調整の体制を整えておりますので、民間開発が進むよう市として最大限支援してまいりたいと考えております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 次に、線引きの見直しを含めた9号線沿線の条件緩和についてお尋ねをいたします。

新工業団地整備が中止となった今、安来市の企業立地や企業誘致、そして雇用の確保のためには、線引きの見直しも含め、特に国道9号線周辺に工業施設などが進出できるよう条件緩和も検討しなければ安来市の発展はないと考えますが、検討されるお考えはありますか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 二岡建設部長。

▼○建設部長（二岡敦彦君）▽ 安来市と松江市で構成いたします松江圏都市計画区域では、区域区分制度、いわゆる線引き制度を採用しております。この線引き制度によって、国道9号の沿線の荒島交差点から安来警察署付近までの主に赤江地区は、都市計画法上の市街化調整区域となっており、一般的には開発が抑制される地域でございます。

この地域は、安来市都市計画マスタープランにおいて将来市街地検討地に指定されております。この将来市街地検討地とは、農業生産環境に配慮しながら、緩和区域や地区計画を利用して計画的な土地利用を進める区域でございます。

議員の言われます国道9号周辺への工業施設などの進出も含め、将来市街地検討地である調整区域において企業進出を希望する開発希望者があった場合におきましては、地区計画の決定や農地転用、接道要件など整えるべき条件は多くありますが、市として可能な支援を行っていく考えでございます。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ この項目最後に、新年度に向けた人口減少対策の政策についてお尋ねをいたします。

市長さんをはじめ執行部の皆さんは、人口減少の現状はしっかりと把握しておられると思います。新年度に向け、何か新しい施策を考えておられますでしょうか、お答えをお願いします。

▼○議長（永田巳好君）▽ 田中市長。

▼○市長（田中武夫君）▽ 先ほど政策推進部長よりいろいろ答弁いたしましたけれども、喫緊の課題は、もちろん、若年層の人材の流出だと思ってます。そして、その対策が一番だと思っています。特に市外に進まれました学生が地元に戻って就職していただく人材還流といいますか、そういうことが特に急務と考えておりまして、昨年度から高校魅力化推進事業を皮切りに、島根県立大学との連携を特に包括連携協定ということでやっておりますが、今年の春に学長が来ていただきまして、そこで商工会議所、商工会と、そして安来市の4者で包括連携協定を結びましたが、そのときに夜に懇親会をしまして、そこで、安来には、もちろん大学がございませんので、様々な大学生と直接触れ合うということ、そしてまた、小・中学校の人、そして高校の人、そして大学と、そういうふうに結ぶことはできないかということで、サテライトキャンパスをつくっていただけないかということをお願いしたところ、快くつくってやるということで、早速、一風亭を利用しまして、今、未来アトリエと題しましてやっていただいとるところでございます。

当然、今年やったから、来年すぐに増えるということではございませんけれど、まずは、市内の小・中学校、高校の子供さんたちが安来のことを十分知っていただいて、そして、安来の企業を知っていただく、そういうことから始めなければいけない、そこが第一歩だと思っております。



今後、新たに来年度（令和5年度）につきましては、市内の高校、そしてまた市内の企業の方々と連携しまして就職などの情報発信の仕組みづくり、また、先ほど来申し上げております様々なSNS等々を活用しまして、出張就職支援セミナーとか、それからまた婚活イベント、これもSNSでマッチングアプリといいますか、そういうことで、今、成婚率が高いというふうな情報もございますので、充実させていきたいというふうに思っております。

また、就職支援のほかにも、IT企業をはじめとしましたソフト産業の誘致、これも実際に東京の大手にも、もちろんトップセールスをしていきました。そして、安来にも来ていただきました。しかし、それは今、成果につながっておりませんけれども、大阪にも行きました。なかなか一長一短がございまして、すぐに誘致ということになりませんが、今後も子育て世代の定住・定着を図ることによりまして、特に食と住が大切だと思っておりますので、先ほど来答弁しておりますように、総合的に判断してまいりたいと思っております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ 次に、大項目2番目の「観光戦略について」お尋ねします。

今年、中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンが改定され、その中には興味のあるデータがたくさん載っておりました。その一つが、令和2年の居住都道府県別の延べ宿泊者数です。それを見て、まず私が驚いたのは、安来市で宿泊した人がとても少なかったことです。

RESASの最新のデータを調べたところ、令和3年の安来市での宿泊者数は1万8,946人でした。松江市は約180万人、出雲市約76万人、米子市約94万人、境港市でも5万6,000人でした。安来市の宿泊者数は松江の約100分の1ということになります。

私は、観光入り込み客数より宿泊者数が観光消費額を増やすことにつながると思っております。これが安来にお金が落ちることになると思っています。この数字を見て何が足りないと思っておられますでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 中海・宍道湖・大山圏域の5市の宿泊者数につきましては、圏域の中で安来市が一番宿泊者数が少ない状況となっております。

市内の宿泊施設の収容状況といたしましては、清水、さぎの湯温泉、比田温泉、駅前の各エリアの旅館等と上の台、山佐ダムのコテージを含めた総部屋数は113部屋で、収容人数は約400人となっており、圏域の中でも一番収容人数が少ない状況となっております。このように、宿泊者数が少ない要因としましては、宿泊を受け入れる収容能力が大きく影響していると認識しております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ そこで、次に、ビジネスホテルの誘致についてお尋ねいたします。

市長さんは、議長時代、ビジネスホテルの誘致に力を入れておられ、私も副議長としてご一緒させていただき、都内の大手ビジネスホテルチェーンを何社か回らせていただきました。市長さんになられ、ビジネスホテルの誘致については、私は一度も、今のところ聞いておりませんので、ビジネスホテルの誘致についてはどのようなお考えでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 田中市長。

▼○市長（田中武夫君）▽ 作野議員おっしゃいますように、私も議長時代、作野副議長と一緒に東京都内を何社も回ったことをもちろん覚えております。そしてまた、私、東京不案内でございましたので、非常に丁寧にいろいろ道案内していただき、紹介していただきまして、ありがとうございます。

就任後は、今は関西圏に絞っております、3社に当たっております。しかしながら、米子、松江の動向もありまして、まだ成約に至っておりませんが、一つの会社はまだ望みがございまして、今後もトップセールスといいますか、実際に直接行って交渉してまいりたいというふうに思っております。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野幸憲議員。

▼○14番（作野幸憲君）▽ それでは、大項目最後の質問です。観光戦略についてお尋ねいたします。

RESASに掲載してある宿泊者数の参加形態型を見ると、安来市での宿泊者数1万8,946人のうち、夫婦やカップルが9,217人でトップ、男女グループが3,824人、そして女性グループ、家族、一人、男性グループとなっております。また、宿泊日数も2泊から3泊する方が多いということになっております。これを見ると、宿泊してもらえ方のターゲットや戦略を見直す必要があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

▼○議長（永田巳好君）▽ 宇山政策推進部長。

▼○政策推進部長（宇山富之君）▽ 平成 25 年に安来市観光協会が安来市観光振興プランを策定する際に実施した市場調査によりますと、本市に観光に訪れる動向形態としては、ご夫婦と子連れ家族が多く、次いでカップルなどの個人旅行の割合が多く、また、比較的高い年代の方が訪れていることが分かりました。

その後、ご夫婦、家族、女性同士、一人旅をターゲットとして滞在時間延長につながる観光コンテンツの造成を計画、実施し、インバウンド対応も加え、現在も継続して取り組んでいるところで……。

▼○議長（永田巳好君）▽ 作野議員には失礼ですけど、時間になりましたので、これをもって終了していただきたいと思います。

（14 番作野幸憲君「ありがとうございました」と呼ぶ）

以上で 14 番作野幸憲議員の質問を終わります。